



TITLE:

京大広報 No. 646

AUTHOR(S):

京都大学総務部広報課

CITATION:

京都大学総務部広報課. 京大広報 No. 646. 京大広報 2009, 646: 2923-2946

ISSUE DATE:

2009-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196438>

RIGHT:



京大広報

No. 646

2009.6



iCeMSコンプレックス1本館竣工披露式典
—関連記事 本文2928ページ—

目次

理事就任後のご挨拶 総務・人事・広報担当理事・副学長 大西 珠枝……………2924	〈資料〉 平成21年度入学試験諸統計……………2934
〈大学の動き〉 益川敏英名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念 講演会「科学を発展させる力」を開催……………2926 博士学位授与式を挙……………2927	〈話題〉 宇治キャンパスで平成21年度新入院生等の ための安全衛生教育を実施……………2939 平成21年度日本学術振興会拠点大学交流事業 「環境科学」および「都市環境」連絡協議会を開催 ……………2939
〈部局の動き〉 iCeMS コンプレックス1本館竣工披露式典を挙……………2928	〈計報〉……………2940
〈寸言〉 運と感謝 上田成之助……………2929	〈公開講座〉 平成21年度(第73回)食と農の マネジメント・セミナー……………2940 数理解析研究所 数学入門公開講座……………2941 理学研究科数学教室公開講座 「現代数学展望」……………2941
〈随想〉 大学と成人教育 名誉教授 上杉 孝實……………2930	〈お知らせ〉 無料法律相談のお知らせ……………2942
〈洛書〉 久しぶりに京都に戻ってきて思うこと 石合 正道……………2931	〈日誌〉……………2942
〈荣誉〉 齋藤軍治名誉教授、村上正紀名誉教授、永田和宏 再生医科学研究所教授が紫綬褒章を受章 ……………2932	〈隔地施設紹介〉 防災研究所附属火山活動研究センター 桜島火山観測所……………2943

京都大学総務部広報課

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

理事就任後のご挨拶

総務・人事・広報担当理事・副学長
大西 珠枝

私は、平成20年7月より尾池和夫前総長のもとで理事を務めましたが、昨年10月より松本 紘総長のもと、総務・人事・広報担当の理事として再任されました。特命事項として、事務総合調整、男女共同参画も担当しています。これらは、教育、研究、医療、社会貢献という京都大学に課せられた使命を果たしていく上での基盤となる分野であり、大学運営における課題をしっかりとらえ、必要な改革を着実に図っていききたいと考えています。

以下では、(1)事務改革の推進、(2)人材の育成と活用、(3)広報活動の充実・強化、(4)男女共同参画の推進について、現状と課題を述べたいと思います。

平成16年4月の国立大学の法人化と非公務員化に伴い、京都大学においても総長、役員を中心とした大学運営にふさわしい制度づくりとその運用が行われてきました。特に国からの運営費交付金が年1%の効率化係数により削減され、人件費の年平均1%減が課せられる中で、事務の見直しによる事務量の削減、事務処理の効率化を図るとともに、事務組織の再編成・整備、課内の掛のフラット化などの事務改革を進めながら、事務職員の定員削減を実施してきました。

この間、今年度までの第1期中期目標期間中において、京都大学では競争的資金の獲得、先端的な研究の推進、新たな教育研究組織の設置など、総合研究大学としての拡充を進めてきました。定員削減の中にあっても、職員の努力により、教育研究活動に対して支援業務、事務執行に対応し、事務組織としてその期待される役割をしっかりと果たしてきています。

平成22年度からの第2期中期目標期間6年においても、京都大学の使命である教育、研究、医療、社会貢献の質を維持・向上させながら、さらなる発展を遂げていくために、事務組織・運営について、第1期の取組を検証し、これまで以上に支援機能や



執行、企画立案等の機能を充実強化することが必要です。

そのため、第2期に向けた事務改革の方針とその方策を21年度中に検討する必要があります。例えば22年度からの統合認証システムの本格導

入を契機として、各部局、本部事務部において改めて業務分析を行い、新たな発想で事務を集約化・省力化し、事務運営の効率化を図ることが期待されます。また、その過程の中で、教育研究組織の区切りにとらわれず、部局事務の特性や分野に応じて、事務組織の集約化、機能分担を検討することも必要と考えています。

さて、法人化後、職員に対して、日常の大学運営事務に加えて、教員と連携協力しつつ、大学運営の企画立案等に参画する意識、経営感覚をもって職務にあたることが求められています。特に法人化後は、国家公務員試験ではなく国立大学法人職員採用試験によって、国立大学での勤務を希望する者の中から、京都大学職員として働くことに強い自覚と高い意識をもった職員を採用しています。こうした職員が創造的・主体的に大学運営に貢献していくために必要な知識、技能を身に付け、その能力の向上を図るため、京都大学独自の仕組みをつくり、特に研修、能力開発の体系化を図ってきました。また、人事交流による幅広い経験の付与、評価システムをモチベーションの向上に有効に用いることなどの取組も行ってきました。非公務員化に伴い、労働基準法などの労働法令を遵守しつつ、法人としての適切な労使関係の維持に努める一方、国からの運営費交付金を中心に運営されているため、国家公務員の処遇等に関する人事院勧告を尊重することが求められていますし、会計検査院からの指摘を受ける場合もあります。基本的には社会への説明責任を適切に果たしつつ、

いかに多様な職務に対応して独自の工夫により柔軟な制度運用を行うか、そのバランスに配慮した人事システムの構築と運用について、必要に応じ常に検討し、改善していきたいと考えています。

なかでも、近年高度化・複雑化している大学の教育研究支援業務、あるいは適確な管理運営に対応するため、これまでの教員と職員の間位置する中間的な職種に対するニーズが高まっており、その職種としての確立が課題とされています。いわゆる「中間職」については、既に実質的に教員または職員としての身分を有しながらその機能を担い、役割を果たしている人たちが大学の中には存在しています。このような役割を果たす職種を新たに定め、その人員を増やしていこうとする場合、教職員については、総人件費抑制の要請からシーリングまたは定員削減を行っているのです。その財源については全学的な資金の活用などを検討することも必要ですし、その給与、勤務条件、将来にわたるキャリアパスについて、教員、職員との関係を整理して体系的に位置付ける仕組みを多角的に検討することが必要になると考えています。

次に、広報活動は、京都大学がその使命である教育、研究、医療、社会貢献の面において、何を目指し、どのような活動をしているかを、国民や社会に対してわかりやすく説明するという責任を果たすことがその大きな役割ですが、さらに大学に対する理解と支援のネットワークづくりという側面からも大切であり、積極的に情報発信していく活動が重要です。

現在、「京大広報」、「紅萌」、「楽友」(英文)の広報誌の刊行、ホームページによるリアルタイムの情報提供、DVDなどの多様な広報媒体の作成等を中心として実施していますが、今後は全国的な広がりを意識しながら、マスメディアに対して情報発信を行うことが必要です。既に総長が昨年12月から毎月、記者クラブとの定例懇談会を実施されていますが、このように大学として積極的に働きかけていく情報発信の取組を増やしていくことが大切です。

各部局において、様々な活動について情報発信を行う際には、京都大学全体としての統一感を維持し

ながらも、各部局がそれぞれの特性を発揮し、持ち味を生かした情報発信をしやすいような環境づくりとその支援に努めたいと思います。

最後に、男女共同参画の推進について、男性も女性もその能力を活かし、家庭生活と職業生活が両立できる社会の実現は、我が国社会の各方面で課題とされています。

京都大学においては、現状は各種データで見える限り立ち遅れたところも多いのですが、多様な人材の活用が今後の教育・研究の活力の源泉となるという基本的理念を具体的に進めるため、この3月に京都大学男女共同参画アクションプランが決定され、今年度からの5年間、その実施に努めることとしています。その中では、平成18年9月に設立された女性研究者支援センターを中心に行われている京都大学独自の支援事業について、大学として継続し、女性研究者の育成とより良い教育・研究環境づくりに努めることも盛り込まれています。

今後さらに、大学意思決定組織における女性比率の向上、教員・研究員の採用・昇任における女性についての公正な評価の確認、教育・研究・就業と家庭生活の両立支援の充実、そしてこれらの取組を広く国内外に発信することを通じて優秀な女性研究者を惹きつける京都大学となることを目指しています。なお、職員については、職階ごとの女性比率の数値目標を掲げて、女性職員の登用育成に力を入れることとしています。

アクションプラン初年度の今年は、教職員・学生への啓発活動の推進を重点テーマとし、男女共同参画への理解を深めていただくよう努めます。男女共同参画の視点に立った教育・研究・就業の確立を図ることによって、京都大学が教職員一人ひとりがいきいきとして誇りとやりがいをもてる職場となり、ひいては京都大学の使命である教育、研究、医療、社会貢献を堅実に果たし、大学の発展につながっていくものと確信しています。

以上、私の担当する分野について述べてきましたが、松本総長のもと、精一杯職務遂行に努めたいと思いますので、どうか皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大学の動き

益川敏英名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念講演会
「科学を発展させる力」を開催

5月8日(金)、百周年時計台記念館において、昨年の益川敏英名誉教授のノーベル物理学賞受賞を記念して学内者向け講演会を開催した。

吉川研一理学研究科長による司会のもと、はじめに松本 紘総長の開会の挨拶があり、次いで益川名誉教授による「科学を発展させる力」と題した約1時間の講演が行われた。最後に江口 徹基礎物理学研究所長が閉会の挨拶を行った。

講演で益川名誉教授は、技術の陳腐化の例として、真空管からトランジスタへの移行や、エジソンの直流方式採用の電力会社の失敗等を例に挙げ、日々膨大な発展を遂げる科学の世界における基礎学問の重要性を強調する一方、最近、技術のブラック・ボックス化により「科学の疎外化」が起こっているとの問題も指摘された。また、「科学的精神とは肯定のための批判精神である」と述べ、科学は、あるものを肯定するためにそうでないものをひとつひとつ消していく作業だ



開会の挨拶をする松本総長



講演を行う益川名誉教授

と説かれた。学生に対しては、大学は学問を味わうために「深い文化に触れる場所」であるとし、「しっかり学んでほしい」と激励された。

500名収容の会場には、多くの学生・教職員が詰めかけ、立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。

続く交流会では、九後太一基礎物理学研究所前所長の司会、西村周三理事・副学長による乾杯の発声の後、出席した多くの学生が益川名誉教授を囲んで熱心に話を聞いたり質問をしたりした。また、抽選により5人の学生に、スウェーデン王立科学アカデミーの2008年ノーベル物理学賞受賞者ポスターの写しに益川名誉教授が直筆でサインを入れたものと、副賞として松本総長がスウェーデンで購入したノーベル賞メダル風チョコレートが贈られた。益川名誉教授の周りには、予定時間を超えて学生の人だかりができ、交流会は盛況のうちに終了した。



交流会の様子

(総務部)

博士学位授与式を挙行政

5月25日(月)午前10時30分から、百周年時計台記念館において、松本 紘総長、副学長をはじめ、各研究科長・学舎長、副理事、理事補出席のもと、博士学位授与式が挙行政された。

総長から、各授与者に対し学位記(5月25日付)が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時10分に終了した。

各分野別内訳は次のとおりである。総長式辞は総長室ホームページに掲載されている。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/president25/speech/090525_1.htm



学 位	課程博士	論文博士	計	学 位	課程博士	論文博士	計
博士(文学)	1	—	1	博士(工学)	9	3	12
博士(教育学)	3	—	3	博士(農学)	5	3	8
博士(法学)	—	—	—	博士(人間・環境学)	—	1	1
博士(経済学)	—	—	—	博士(エネルギー科学)	3	—	3
博士(理学)	8	3	11	博士(地域研究)	1	—	1
博士(医学)	11	5	16	博士(情報学)	—	—	—
博士(医科学)	—	—	—	博士(生命科学)	4	—	4
博士(社会健康医学)	1	—	1	博士(地球環境学)	1	—	1
博士(薬学)	—	1	1	計	47	16	63



(教育推進部)

部局の動き

iCeMSコンプレックス1本館 竣工披露式典を挙行

物質－細胞統合システム拠点(iCeMS＝アイセムス)は、4月28日(火)、iCeMSコンプレックス1本館竣工披露式典を同館2階のセミナー室、交流ラウンジ、展示室にて挙行了。式は施設見学会、竣工披露式典、レセプションの3部構成で、学内外から約200名の関係者が出席した。

施設見学会では1階と2階を開放し、出席者がそれぞれ自由に観覧する形式で行われた。

式典では、中辻憲夫拠点長による式辞および施設紹介、松本紘総長による挨拶、黒木登志夫日本学術振興会学術システム研



左から、黒木日本学術振興会学術システム研究センター副所長、岡谷文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官

究センター副所長および岡谷重雄文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官による祝辞があり、司会は富田眞治事務部門長が務めた。

本館は、延べ床面積約5,000㎡の建物に、iCeMSの管理部門および化学系、生物系の研究室が主に入居する。特色としては、学際融合研究を行うことを目的とするiCeMSの理念に基づき、研究者室は、全ての研究グループのメンバーが同じ部屋にデスクを並べる大部屋、すなわちオープンオフィスとして



式典後歓談する松本総長、山中伸弥教授、中辻拠点長



iCeMSコンプレックス1本館の外観

設計してある。これは、研究者が一堂に会することにより、日々の活動において自然発生的に研究交流が行われることをコンセプトとしているためである。また、教授室についても、それぞれの部屋は独立性を保ちながらも透明感を高め、廊下を通るだけで研究者達が顔を合わせ、コミュニケーションを図る機会が得られる環境を創造している。

2階の交流ラウンジは、iCeMSの活動が「社会から見える」よう、ガラス張りの部屋として設計するとともに、インテリアや中庭のデザインは真の国際的施設として、京都在誇りとする日本文化を取り入れた「東洋と西洋の融合」をコンセプトとしている。なお、



交流ラウンジにおける施設見学の様子

隣接するセミナー室、展示室と併せて、学内外の研究者や一般市民の方を対象としたシンポジウム等の催し物の企画も検討する予定である。

一方、研究・実験室は、こちらも学際融合研究を目的としているため、共用の研究・実験室を多く配置し、化学系、生物系の研究グループ等が協働して新たなメゾ材料や細胞を用いた最新の研究を進めていく。

(物質－細胞統合システム拠点)

寸言

運と感謝

上田 成之助



今でもその時の驚きを、ハッキリと覚えている。昭和43年の3月、京大入学試験二日目(多分?)の昼休み。工学部電気系を受験していた私は、芝生にシートを敷いてお昼弁当を頬張っていた。昼からの試験は、化学と物理。物理は自信があったが化学は暗記しなければならないことも多く、不安な所が多かった。1時間後に迫った試験、「今更ジタバタしても仕方がないわい。」とは思いつつ、化学の受験用問題集に折り目を入れてあったページ(もうひとつ自信のない部分、数箇所折り目を入れていた)を見直していた。その箇所は「6-6 ナイロンの製造方法」。勿論、その内容はとっくの昔に忘れ去ってしまったが、試験開始となり配布された設問類をざっと見渡してみて、ビックリ仰天!なんと、「6-6 ナイロンの製造方法」がそっくりそのまま出題されている!ラッキーそのもの!しかも化学の配点100点の内、20点分くらいに相当するボリューム。私は、つい先程暗記し直した内容を忘れる前にと、真っ先に書き込んでいった。このおかげで、理科(化学と物理)の試験結果は出来過ぎともいえる数字となり、苦手だった国語と社会の不出来をカバーして、ほんとに運よく合格できた次第。

この時思ったことは、二つ。一つは「オレはツイてるぞ。きっと幸運の星のもとに生まれたに違いない。この身に悪いことが起こるはずがない。」と、全く無茶苦茶勝手に思い込むこと。楽観主義の極みであるが、このように考えることによって、その後のいろんな場面で余り深刻にもならず、結構得してきたと思っている。そしてもう一つは「ほんとに最後の最後まであきらめたらあかんなあ。できることは最後まで、往生際が悪くても、もがいてギリギリま

でやってみるもんだな。」ということ。「努力は最後まで諦めずにしてみるものだ。」ということと、逆の意味で、「詰めが甘いと最後で躓くこともあるぞ。」ということ。大学入試でのちょっとした出来事だったけれど、私の人生にとっては、とても大きな経験と教訓をいただいたと、天に感謝している。

就職は縁あって鉄道会社にお世話になることとなったが、電鉄の電気屋としての知識はゼロ。大学で習った理論などは全く役にたらず知らないことばかりで、また一からの勉強を強いられた。その後、社内無線電話システムの大幅更新工事や運行管理システムの導入など大きな仕事にも恵まれ、上司、部下にも恵まれて、本当に「運のいい」会社生活を送れてきたと思う。先日、知人から「あなたは今までアンラッキーと思うようなことはなかったのではないか?」と問われたが、「アンラッキーなことはあったかもしれないが忘れた。ラッキーだと思ったことは山ほどある。」と答えた。人間、不運だと思い始めると、どんどん不運が集まってくるような気がする。どんな小さな事でも「あつ、自分は運がいいな、ツイてるぞ!」と思うことによって、不遜な態度、過信というものからも解き放たれ、謙虚になることができるのではないか。「こんなにうまくいったのは運がよかっただけ。決して自分の力だけで出来た訳ではなく、皆さんのおかげや。」と思い、感謝することによって、天狗になることを防ぐことができる。反対に、自分の努力不足を棚に上げて「不運だ」と不平不満を言い出すと、不平不満のタネがどんどん集まってきて、身の回りが不平不満だらけになってしまうのではないか。何事にも「みんなのおかげ」と感謝するという謙虚な気持ちを持つことが大切で、学生時代には勉強や研究も大事だが、部活やアルバイト、ボランティアなどいろんな人達と幅広くお付き合いして、いい人間関係が築けるようになっておくことも大切ではないかと思う。

(うえだ せいのすけ 京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長 昭和47年3月工学部卒)

随想

大学と成人教育

名誉教授 上杉 孝實



今日の大学では、研究、教育と合わせて社会貢献が重要な機能とされています。社会貢献の中には、大学開放が含まれていて、一般成人への教育機会の提供に努めることが求められています。京都大学も、1910年頃から単発的な講演会でなく、継続的な公開講座を展開していました。ただ、日本の大学成人教育は、組織面で弱いところがあります。国立大学(多くは教育系大学)で生涯学習教育研究センター、私立大学でエクステンションセンターを設けるところが増えていますが、前者には専任教員が1～2人で事務職員を欠くところが少なくなく、後者には事務職員がいても専任教員はいないところが目立ちます。

周知のように英米の大学では、成人教育部や拡張部を設けて、多くの専任の教員・事務職員を配置し、組織的に大学開放を行ってきました。私が1982年に在外研究で滞在したイギリスのノッティンガム大学の成人教育部は、当時全盛期で、国際的にも重要な位置にあって30人ほどの専任教員を擁し、成人教育の研究・実践、成人教育者の教育を進めていました。その背景には、国が大学に対してとは別に成人教育部に直接補助金を出していたことがあります。

しかし、その後の教育改革で、イギリス全土で成人教育部の経費がもっぱら大学の予算に依拠するようになると、成人教育部は規模を縮小し、継続教育センターに変わるところが多くなっています。成人教育で採算を取ることはむずかしく、地域貢献の観点での予算の裏付けが必要です。代わって大学あがりの成人教育が標榜されるようになっていますが、それにはコーディネート機能を果たすこのようなセンターの存在が不可欠になっています。

各国の成人教育研究者が京都大学にも滞在するようになり、成人教育の場と一緒に出かけることが多くなりましたが、彼らがききたがるのは、成人教育に当たっている人がどこで教育されたかということでした。健康教育に当たっている保健師に対して、又、職業訓練を担当している熟練工に対して、どこで成人教育について学んだかとたずねるのです。教える内容について豊富な知識・経験を持つだけでなく、成人教育についても力量が伴わなければならない、その教育機会が用意されるべきということです。パリで訪れた料理学校でも、その教師は、料理と共に成人教育についても教育を受けた人でした。このあたりに日本の成人教育の課題があり、大学の果たす役割があります。

大学が一般の人を対象とした成人教育を展開するにあたって、現状では、住民のニーズをよく把握している自治体との提携が有効です。兵庫県では、私も関わった生涯学習研究開発会議での検討の結果、県といくつかの大学が連携して実行委員会をつくり、講座内容を検討の上、大学が施設・設備と講師を提供し、県が広報と受講者募集を引き受けて、オープンカレッジを開催してきました。現在は、財政状況もあって、講座数を減らし、運営形態も変化していますが、注目される試みでした。

京都大学では、教育学部長を務めたときに大学院重点化に取り組み、停年後勤めた龍谷大学でも教育学専攻の博士後期課程や社会人コースづくりに直面するなど、比較的年齢の高い学生を相手にすることが多かったのですが、いまは奈良県内の畿央大学で、高校を出たばかりの教員志望の学生を教えることも多くなっています。子どもの教育を進める上でも、地域の教育力を高める必要があり、親や成人の教育についても関心のある若者の育成に努めています。大学や学校での教育において、成人教育からヒントを得ることも大切と考えています。

(うえすぎ たかみち 平成11年退職 元教育学部教授、専門は社会教育)

洛書

久しぶりに京都に戻ってきて思うこと

石合 正道

5月9日の朝日新聞の記事が目にとまった。「洛翠」が5月10日に閉館するという。私の、そして家族のお気に入り場所だった。

「洛翠」は岡崎の永観堂・南禅寺界隈の閑静な場所にある。

京大からだ、平安神宮の入り口を横目に、二条通をまっすぐ蹴上方面に歩いていったどんつきだ。市バスの5番が近くを通っている。

「洛翠」は郵政省の保養所で、非常に安く利用できた。元々は、実業家、藤田小太郎氏の邸宅だったものらしい。平安神宮の神苑や円山公園を造った7代目小川治兵衛(植治)作の日本庭園が見事だった。中央には琵琶湖を模した池があり、琵琶湖疎水の水を引き、実際に琵琶湖の水が流れているらしい。池の周りには、茶室「溪猿亭」、中国・清から伝来したという「画仙堂」や伏見桃山城から移築された「不明門(あけずのもん)」等が配置されている。画仙堂は一乗寺の詩仙堂、高台寺の歌仙堂と並ぶ京都の三仙堂とのことだ。

最初に訪れたのは家内の友人の結婚式だったが、一目でその静かで落ち着いたたたずまいと雰囲気魅了された。私たちもそこで結婚式を挙げた。当時、私は京大の大学院生だったため経済的に助かったが、それ以上の贅沢な思い出をつくってもらえた。

洛翠は、一日一組だけの挙式でその日は完全貸し切りとなる。画仙堂で式をあげ、平安神宮の神苑の様に池の中の石橋や置き石を渡り、庭園で皆から祝福を受けた。5月の連休だったので、遅咲きのしだれ桜が見事だったことや、お祝いに樽酒の鏡割りをしたのを覚えている。ゆっくりと贅沢な時間が過ぎたように思う。その時に出席していただいた親戚や



友人に会うと、今でも結婚式の話になるほど、その場所は思い出深い。

結婚後も両親や親戚が京都に来た際には、洛翠を訪れ、庭園を眺めながら京料理をいただいた。大学院修了後、米国へ留学、帰国後も大阪、岡山と京都を離れてしまったが、紅葉の季節に子供達を連れて訪れたこともある。季節に応じて違った表情を見せる庭園が楽しかった。

昨年、15年ぶりにまた京都に住むことになった。洛翠に家族で行きたいなと思ったところだったので、ホームページを見てみたが、本当に閉館してしまった。郵政民営化に伴い、日本郵政共済組合との契約が打ち切られるためらしいが、非常に残念に思う。新たなスポンサーが見つかり、以前のように庭園と料理を(低予算で)楽しめる穴場として再開していただけることを願う。

京都に戻ってきて改めて感じることは身近に緑が多いことだ。今の職場、放射線生物研究センターは医学部地区、吉田近衛にある。敷地内には緑が多く、花や鳥の姿を目にすることが多く、季節の移り変わりを身近に感じる。

春に子供の自然観察の課題を手伝ったのがきっかけだが、最近だいたい名前と実物とが一致するようになった。ジンチョウゲ、アセビ、ユキヤナギ、ミツマタ、ドウダンツツジ、コデマリ、モクレン、ハナミズキなど。今は初夏の花が咲いているが、まだどれがなんだか判らない。

野鳥の姿もよく目にする。シジュウカラやメジロは好きなのでよく目につく。大学院の頃に比べて、大きなハシブトカラスやトビの姿を多く見かける気がする。岡山ではあまり見たことがないが、最近、京都のあちこちで非常に目につく野鳥がいる。調べてみたら、ハクセキレイとムクドリ。名前が判ってくると、こういう身近なことが楽しくなる。

(いしあい まさみち 放射線生物研究センター 准教授、専門は分子生物学)

栄誉

齋藤軍治名誉教授，村上正紀名誉教授，永田和宏再生医科学研究所教授が紫綬褒章を受章

このたび，わが国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより，齋藤軍治名誉教授，村上正紀名誉教授が，また，芸術分野において永田和宏再生医科学研究所教授が4月29日(水)に紫綬褒章を受章されました。

以下に各氏の略歴，業績等を紹介します。

齋藤軍治名誉教授は，昭和42年北海道大学理学部を卒業後，同47年同大学大学院理学研究科博士課程を修了し，理学博士の学位を授与された。同47年同大学理学部研究生，同48年から米国エモリー大学，同50年からカナダ国ゲルフ大学，同52年から米国テキサス大学において博士研究員，同54年岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手，同59年東京大学物性研究所助教授，平成元年京都大学理学部化学科教授，同7年同大学大学院理学研究科教授を経て，同20年に定年退職し，京都大学名誉教授の称号を授与された。その間，平成18年から同20年まで京都大学低温物質科学研究センターのセンター長を務められた。本学退職後は，名城大学総合研究所教授として研究活動を続け，今日に至っている。

同名誉教授は，永年にわたって化学と物理学の境界領域である物性化学の教育・研究に務め，特に有機低分子を主体とした機能性有機材料の開発を行い，先駆的な研究業績を数多く挙げ，機能物質化学の発展に大きく貢献された。

同名誉教授は，有機電荷移動錯体の創成期に，金属・イオン性錯体・中性錯体を作り分ける明確な設計原理図を導出された。さらに，極低温まで安定な金属導電性を示す2次元の有機導電体を開発，昭和63年には10Kを超える転移温度をもつ有機超伝導体の開発に世界で初めて成功し，大きな注目を浴びられた。物質開発のみならず，物性研究にも力を入れ，



有機物で初めてフェルミ面を観測し，従来のBCS型とは異なり異方的なギャップを持つ非BCS型有機超伝導体の実験的証拠を見出すなど，有機導電体の研究を常にリードしてこられた。また，単一成分子有機導電体，複合機能をもつ有機導電体・イオン液体，新奇相転移系の開発など，独自の発想により幅広く研究を展開し，700報を超える原著論文や70編を超える総説・著書を記し，機能物質化学における基礎科学の発展に多大な功績を挙げられた。

これらの一連の研究業績が高く評価され，第4回井上学術賞，第34回 仁科記念賞，日本表面科学会論文賞，第56回 日本化学会賞，BCSJ 論文賞を受賞されている。

こうした研究活動に加え，平成14年より同19年まで，21世紀 COE 京都大学化学連携研究教育拠点のリーダーとして，若手研究者の育成にもリーダーシップを発揮された。国内においては，平成8年から同16年まで，文部科学省学術国際局の科学官を務め，同17年から日本学術振興会の国際事業委員会委員，同18年からは同会の学術システム研究センター主任研究員(化学)，さらに，同19年から科学技術振興機構の調整費研究領域主管プログラムオフィサーを務めるなど，我が国の学術研究の発展に大きく貢献された。また，同20年より日本学術振興会の産学協力研究委員会第181委員会「分子系の複合電子機能」の代表者として，産学連携にも尽力されている。今回の紫綬褒章受章は，以上のような功績が高く評価されたことによる。

(大学院理学研究科)

村上正紀名誉教授は，昭和41年京都大学工学部冶金学科を卒業，同大学大学院工学研究科に進学の後，同46年同博士課程冶金学専攻を単位修得退学され，同年7月に京都大学より工学博士の学位を授与された。同



年6月に米国カリフォルニア大学工学部研究員に採用され，同50年2月に米国IBMワトソン中央研究所研究員になり，同58年12月に同研究所薄膜材料部門マネージャーに昇任された。その後，平成2年8月に京都大学工学部教授に採用され，溶接講座を担当された。大学院重点化に伴い，同8年4月に同大学大学院工学研究科材料工学専攻材料プロセス工学

講座を担当され、同19年3月に定年退職されるまで、多数の優秀な人材を社会に輩出された。同年4月に京都大学名誉教授の称号を授与され、立命館大学副総長として現在も活躍されている。

同名誉教授はこれまで30数年間にわたり、数々のナノ金属薄膜材料の異常現象の発見をし、これらの現象の機構解明と共に実用材料への展開に従事され、多くの業績を挙げてこられた。その主なものは、「超微細結晶薄膜材の超弾性現象の発見と高強度機能材料開発」、「逆原子拡散現象の発見と低接触抵抗電極材開発」、「粗大結晶粒成長機構解明および表皮膜自己形成現象の発見と高伝導銅配線材料開発」等である。これらの研究成果を250編の学術論文として発表され、薄膜材料の基礎分野の開拓に大きく貢献された。それらの基礎研究を半導体デバイス用の電子

材料開発に応用展開され、特にコンタクト工学の新領域への展開においては指導的役割を果たしてこられた。これらの功績に対して、IBM 創造賞、IBM 発明功績賞、IBM 開発賞、W. ホフマン国際記念賞、ジェフリース賞、日本金属学会功績賞、増本量賞、谷川・ハリス賞、日本金属学会功労賞および文部科学大臣表彰科学技術賞等が授与されている。

さらに、学外においても、日本金属学会の会長を始めとする多くの学協会の一任、日本学術会議、文部科学省、経済産業省での数々の委員会の委員長、財団法人の常任理事、評議員を歴任され、日本の材料研究・開発指針構築の政策面でも多大な貢献をされてきた。

(大学院工学研究科)

永田和宏教授は、昭和46年京都大学理学部物理学科を卒業、森永乳業中央研究所での研究の後、同51年京都大学結核胸部疾患研究所研修員、同54年同研究所講師、同61年同教授に昇任、平成10年再生医科学研究所教授に配置換となり現在に至っている。この間、昭和59年より2年間、米国国立癌研究所に客員准教授として招かれ、現在は放送大学、秋田大学の客員教授をも務められている。



同教授は、初期には白血病細胞分化誘導機構の研究、米国留学以降は分子シャペロンによる細胞機能制御の研究、および細胞内におけるタンパク質の品質管理機構の研究を続けられている。特にコラーゲン特異的分子シャペロン Hsp47、品質管理を担う新規因子 EDEM や ERdj5 の発見など、独自の重要な因子の発見、機能解析を通じて、国際的に著名な業績を挙げられた。この間、日本細胞生物学会会長、国際細胞ストレス学会会長、アジア太平洋細胞生物学会副会長などを歴任され、また癌特別研究計画班

代表や特定領域研究領域代表などを務められた。

一方で、永田教授は歌人としてもよく知られ、20代で第一歌集『メビウスの地平』を刊行されて以降、若手・中堅歌人のリーダー的存在として、常に歌壇の牽引者としての役割を担い活躍してこられた。ドイツ文学の故高安国世名誉教授が創刊された「塔」短歌会を引き継ぎ、現在は会員数1000名余の雑誌に育てられ、多くの優れた若手歌人を育成された。他に朝日新聞歌壇選者、宮中歌会始詠進歌選者なども務められている。10冊に及ぶ歌集、ならびに選集、『昭和の歌人たち』など5冊の評論集の他、多数の共著を刊行されている。

歌集『華氏』で第2回寺山修司短歌賞、歌集『饗庭』で第3回若山牧水賞、第50回読売文学賞、歌集『風位』で第54回芸術選奨文部科学大臣賞、第38回迢空賞、歌集『後の日々』で第19回斎藤茂吉短歌文学賞などをはじめとして、多くの賞を受賞されている。今回の受章は、歌人としての長年の業績が高く評価されたものである。

(再生医科学研究所)

資料

平成21年度入学試験諸統計

1. 募集人数・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者数 （辞退者数）	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期(文系)	65 ^人	330 ^人	306 ^人	305 ^人	68 ^人	1 ^人	1 ^人	124 ^人
	前期(理系)	55	207	207	202	57			
文学部	前期	220	561	561	558	223	1		222
教育学部	前期(文系)	50	189	189	185	52	1		61
	前期(理系)	10	36	36	34	10			
法学部	前期	320	812	812	802	327			327
経済学部	前期(一般)	180	583	583	574	190	2		238
	前期(論文)	25	112	88	84	25			
	前期(理系)	25	110	110	109	25			
理学部	前期	311	1,003	987	982	316			316
医学部	前期	248	590	590	579	260	2		258
薬学部	前期	80	244	244	236	84	1		83
工学部	前期	955	2,388	2,388	2,352	973	7	1	967
農学部	前期	300	826	826	811	317	1		316
合 計		2,844	7,991	7,927	7,813	2,927	16	1	2,912

〔外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）〕

学 部	募集人数	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	10人以内	25 ^人	18 ^人	11 ^人	9 ^人	9 ^人
経済学部	10人以内	28	15	11	6	6

〈医学部・薬学部学科・専攻別内訳〉

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
医 学 部	前期	248 ^人	590 ^人	590 ^人	579 ^人	260 ^人	2 ^人		258 ^人
医 学 科	前期	105	306	306	299	109			109
人間健康科学科	前期	143	284	284	280	151	2		149
看護学専攻	前期	70	115	115	113	74	2		72
検査技術科学専攻	前期	37	85	85	83	39			39
理学療法学専攻	前期	18	34	34	34	19			19
作業療法学専攻	前期	18	50	50	50	19			19
薬 学 部	前期	80	244	244	236	84	1		83
薬 科 学 科	前期	50	122	122	120	53	1		52
薬 学 科	前期	30	122	122	116	31			31

〈工学部・農学部学科別内訳〉

学部・日程		募集人数	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
工 学 部	前期	955 ^人	2,388 ^人	2,388 ^人	2,352 ^人	973 ^人	7 ^人	1 ^人	967 ^人
地 球 工 学 科	前期	185	393	393	389	189			189
建 築 学 科	前期	80	253	253	252	82			82
物 理 工 学 科	前期	235	592	592	587	238	4	1	235
電気電子工学科	前期	130	281	281	272	132	2		130
情 報 学 科	前期	90	224	224	220	92	1		91
工業化学科	前期	235	645	645	632	240			240
農 学 部	前期	300	826	826	811	317	1		316
資源生物科学科	前期	94				98			98
応用生命科学科	前期	47				49			49
地域環境工学科	前期	37				40	1		39
食料・環境経済学科	前期	32				34			34
森 林 科 学 科	前期	57				60			60
食品生物科学科	前期	33				36			36

2. 合格者 最高点・最低点（総点）調

学 部	日 程		満 点	総 点																																																		
				最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																
総 合 人 間 学 部	前 期	(文 系)	750 点	538.33 点	426.33 点	461.37 点																																																
		(理 系)	800	524.25	390.50	429.03																																																
文 学 部	前 期		700	533.61	431.16	461.36																																																
教 育 学 部	前 期	(文 系)	900	636.35	554.29	586.89																																																
		(理 系)	900	638.93	558.13	595.21																																																
法 学 部	前 期		750	595.20	465.45	500.27																																																
経 済 学 部	前 期	(一 般)	800	633.95	512.65	539.79																																																
		(論 文)	600	415.99	329.33	364.63																																																
		(理 系)	950	723.65	569.76	604.51																																																
理 学 部	前 期	注 1	650	484.00	324.00	360.91																																																
		(数理 30 位)注 2	(400)	(312.00)	(241.00)	—																																																
医 学 部	前 期		—	—	—	—																																																
<table><tr><th rowspan="2">医学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>医 学 科</td><td rowspan="5">前 期</td><td>1,300 点</td><td>1,067.01 点</td><td>884.99 点</td><td>940.81 点</td></tr><tr><td>人間健康科学科看護学専攻</td><td>1,200</td><td>799.13</td><td>618.43</td><td>684.05</td></tr><tr><td>人間健康科学科検査技術科学専攻</td><td>1,200</td><td>857.60</td><td>686.23</td><td>727.56</td></tr><tr><td>人間健康科学科理学療法専攻</td><td>1,200</td><td>893.23</td><td>682.40</td><td>764.01</td></tr><tr><td>人間健康科学科作業療法専攻</td><td>1,200</td><td>807.83</td><td>672.63</td><td>728.76</td></tr></table>							医学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	医 学 科	前 期	1,300 点	1,067.01 点	884.99 点	940.81 点	人間健康科学科看護学専攻	1,200	799.13	618.43	684.05	人間健康科学科検査技術科学専攻	1,200	857.60	686.23	727.56	人間健康科学科理学療法専攻	1,200	893.23	682.40	764.01	人間健康科学科作業療法専攻	1,200	807.83	672.63	728.76													
医学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																	
医 学 科	前 期	1,300 点	1,067.01 点	884.99 点	940.81 点																																																	
人間健康科学科看護学専攻		1,200	799.13	618.43	684.05																																																	
人間健康科学科検査技術科学専攻		1,200	857.60	686.23	727.56																																																	
人間健康科学科理学療法専攻		1,200	893.23	682.40	764.01																																																	
人間健康科学科作業療法専攻		1,200	807.83	672.63	728.76																																																	
薬 学 部	前 期		950	710.05	565.26	612.73																																																
<table><tr><th rowspan="2">薬学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>薬 科 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>950 点</td><td>697.71 点</td><td>565.26 点</td><td>609.53 点</td></tr><tr><td>薬 学 科</td><td>950</td><td>710.05</td><td>576.51</td><td>618.21</td></tr></table>							薬学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	薬 科 学 科	前 期	950 点	697.71 点	565.26 点	609.53 点	薬 学 科	950	710.05	576.51	618.21																												
薬学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																	
薬 科 学 科	前 期	950 点	697.71 点	565.26 点	609.53 点																																																	
薬 学 科		950	710.05	576.51	618.21																																																	
工 学 部	前 期		—	—	—	—																																																
<table><tr><th rowspan="2">工学部学科別</th><th rowspan="2">日 程</th><th rowspan="2">満 点</th><th colspan="3">総 点</th></tr><tr><th>最 高 点</th><th>最 低 点</th><th>平 均 点</th></tr><tr><td>地 球 工 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>1,000 点</td><td>673.25 点</td><td>488.70 点</td><td>547.86 点</td></tr><tr><td>建 築 学 科</td><td>1,000</td><td>679.15</td><td>520.13</td><td>576.06</td></tr><tr><td rowspan="2">物 理 工 学 科</td><td rowspan="2">前 期</td><td>(配 点 A)</td><td>1,000</td><td>673.63</td><td>534.45</td><td>579.58</td></tr><tr><td>(配 点 B)</td><td>1,000</td><td>720.00</td><td>584.66</td><td>616.89</td></tr><tr><td>電 気 電 子 工 学 科</td><td rowspan="3">前 期</td><td>1,000</td><td>847.23</td><td>510.20</td><td>577.14</td></tr><tr><td>情 報 学 科</td><td>1,000</td><td>715.85</td><td>534.71</td><td>588.81</td></tr><tr><td>工 業 化 学 科</td><td>1,000</td><td>745.31</td><td>528.76</td><td>580.28</td></tr></table>							工学部学科別	日 程	満 点	総 点			最 高 点	最 低 点	平 均 点	地 球 工 学 科	前 期	1,000 点	673.25 点	488.70 点	547.86 点	建 築 学 科	1,000	679.15	520.13	576.06	物 理 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	673.63	534.45	579.58	(配 点 B)	1,000	720.00	584.66	616.89	電 気 電 子 工 学 科	前 期	1,000	847.23	510.20	577.14	情 報 学 科	1,000	715.85	534.71	588.81	工 業 化 学 科	1,000	745.31	528.76	580.28
工学部学科別	日 程	満 点	総 点																																																			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点																																																	
地 球 工 学 科	前 期	1,000 点	673.25 点	488.70 点	547.86 点																																																	
建 築 学 科		1,000	679.15	520.13	576.06																																																	
物 理 工 学 科	前 期	(配 点 A)	1,000	673.63	534.45	579.58																																																
		(配 点 B)	1,000	720.00	584.66	616.89																																																
電 気 電 子 工 学 科	前 期	1,000	847.23	510.20	577.14																																																	
情 報 学 科		1,000	715.85	534.71	588.81																																																	
工 業 化 学 科		1,000	745.31	528.76	580.28																																																	
農 学 部	前 期		1,050	815.93	601.95	648.66																																																

注 1：最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点である。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点である。平均点は合格者の総点の平均点である。

注 2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる 30 位までの者の「数学」と「理科」の得点合計。

(備考) 1) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。
2) 総点については、合格発表時のものである。

3. 志願者・入学者 出身高校等所在都道府県別調

上段…志願者数
下段…入学者数

都道府県	学 部										計
	総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	
北海道	9	15 6	4	12 4	6 3	20 6	9 1	3 3	21 8	8 6	107 37
東北	青森	3 1			1	3 2	1		2 1		10 4
	岩手	3		1	1	2	2		3		12 1
	宮城	3 1	2	3	6 3	8 2	8 3	2 1	11 3	4 1	48 14
	秋田	1	2 1		1 1	1 1	5 1	1	2 1	4 1	19 6
	山形	1	1		1	1	3 2	2		1	11 3
	福島	3 1	2 2	2	3 1	2 1	10 3	3 1	2 3	5 3	2 12
	茨城	7 1	7 1	4 1	4 2	5 1	5 1	1	3	18 11	4 18
	栃木	2 1	3 1		1 1	4	10 3	3 2	1	10 3	2 11
関東	群馬	2	2 1	1	6 3	4	12 2	2		11 3	6 10
	埼玉	9 2	7 1	5 1	6 1	7 3	14 4	6 3	2	20 3	10 22
	千葉	16 2	4	4	12	9 2	22 4	6 1	1	35 3	13 18
	東京	50 7	40 13	18 4	30 8	56 14	96 21	18 6	21 6	68 23	41 116
中部	神奈川	19 4	17 9	6 2	10 2	15 2	30 1	9 3	43 9	11 7	163 37
	新潟	6	2 1	1	6 2	12 3	3 1		9 6	2 1	42 14
	富山	2	7 3	2		6 2	5 3	2 2	1 1	12 5	7 19
	石川	8 1	7 4	6 4	7 2	10 3	11 4	4 1	2 1	23 11	11 35
	福井	8 2	15 5	6 1	6 2	4 1	7 1	7 4		27 14	10 31
	山梨	2 1		3 1	1 1		6 2		1	9 4	4 9
	長野	9 1	3 2	1	7 4	5	15 5	8 5	2 1	18 4	10 5
	岐阜	3	8 2	5 2	17 6	11 6	23 7	6 2	13 5	54 28	16 8
	静岡	17 4	5 3	9 4	9 3	12 2	24 3	9 4	4 1	51 27	20 11
	愛知	17 8	35 14	16 7	48 17	39 15	84 28	22 12	10 4	152 62	42 18

都道府県		学						部					計
		総合 人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農		
近畿	三重	93	103	62	198	125	174	126	83	3618	147	14359	
	滋賀	71	145	81	147	166	1910	179	32	7031	2112	18984	
	京都	455	6632	299	11158	11740	6328	5626	143	229108	7622	80633	
	大阪	9526	8838	319	15569	15444	13045	12053	6025	496202	17065	1,499576	
	兵庫	4714	4716	92	10049	9623	8533	9445	2511	259119	9132	853344	
	奈良	2814	4314	65	5927	6523	3611	4619	177	25695	6429	620244	
	和歌山	52	83	41	123	104	112	62	11	4116	153	11337	
	鳥取	23	31	11	66	31	62	62	33	82	62	4411	
中国	島根	21	21	31	11	11	41	64	22	94	62	3614	
	岡山	36	121	31	125	101	178	115	420	4420	82	12448	
	広島	166	187	33	2710	166	3416	158	71	7430	3116	241100	
	山口	31	31	31	42	62	61	41	11	115	64	4719	
	徳島	11	11		83	51	54	84	42	95	94	5024	
	香川	53	63	11	122	152	144	92		3617	82	10635	
	愛媛	61	94	11	94	72	154	104	22	2412	113	9434	
	高知	31	21	11	41	22	101	31	11	165	41	4612	
九州	福岡	165	1811	81	278	195	3916	157	102	8327	2813	26395	
	佐賀	61	11		41	42	83		11	83	33	359	
	長崎	51	21	11	55	62	83	21		112		4010	
	熊本	41	61	33	31	61	62	43		178	81	5717	
	大分	11	31		31	32	21	11	11	54	78	268	
	宮崎	21	11		31	51	61	22	21	105	22	338	
	鹿児島	93	123	51	85	21	134	124	11	121	82	8224	
	沖縄	21			11	31	62	11	21	51		204	
合計		522124	559222	22361	797325	797237	987312	584258	24183	2,376966	822316	7,9082,904	

(備考) 外国学校出身者のための選考を除く。

高等学校・中等教育学校出身者のみ各欄に含む。

4. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役 21. 3 卒	浪 人 20. 3 以前卒	総 数	現 役 21. 3 卒	浪 人 20. 3 以前卒
総合人間部	537 14 1 他	304 4 1 他	233 10 他	124	81	43
		56.6%	43.4%		65.3%	34.7%
文学部	561 2 他	363 1 他	198 1 他	222	132	90
		64.7%	35.3%		59.5%	40.5%
教育学部	225 2 他	154 他	71 2 他	61	43	18
		68.4%	31.6%		70.5%	29.5%
法学部	812 13 2 他	519 6 他	293 7 2 他	327 1 1 他	201	126 1 1 他
		63.9%	36.1%		61.5%	38.5%
経済学部	805 6 2 他	482 3 他	323 3 2 他	238 1 他	129 1 他	109
		59.9%	40.1%		54.2%	45.8%
理学部	1,003 15 1 他	648 6 1 他	355 9 他	316 4 他	201 2 他	115 2 他
		64.6%	35.4%		63.6%	36.4%
医学部 医学科	306 4 他	155 1 他	151 3 他	109	70	39
		50.7%	49.3%		64.2%	35.8%
医学部 人間健康科学科	284 2 他	186 1 他	98 1 他	149	102	47
		65.5%	34.5%		68.5%	31.5%
薬学部	244 2 1 他	162 他	82 2 1 他	83	57	26
		66.4%	33.6%		68.7%	31.3%
工学部	2,388 12 他	1,547 2 他	841 10 他	967 1 他	597 1 他	370
		64.8%	35.2%		61.7%	38.3%
農学部	826 4 他	540 1 他	286 3 他	316	198	118
		65.4%	34.6%		62.7%	37.3%
合 計	7,991 76 7 他	5,060 25 2 他	2,931 51 5 他	2,912 7 1 他	1,811 4 他	1,101 3 1 他
		63.3%	36.7%		62.2%	37.8%

〔外国学校出身者のための選考に係る入学資格取得年別調（外数）〕

学 部	志 願 者			入 学 者		
	総 数	現 役 20.4～21.3卒	浪 人 20. 3 以前卒	総 数	現 役 20.4～21.3卒	浪 人 20. 3 以前卒
法学部	25 24 1 他	24 96.0%	1 4.0%	9	9 100.0%	0 0.0%
経済学部	28 25 3 他	25 89.3%	3 10.7%	6	6 100.0%	0 0.0%

(備考) 認…高等学校卒業程度認定試験合格者（大学入学資格検定合格者含む）

他…その他の入学資格取得者（高等学校・中等教育学校出身者，高等学校卒業程度認定試験合格者以外）

(学生部)

話題

宇治キャンパスで平成21年度新入院生等のための安全衛生教育を実施

5月8日(金)、宇治キャンパスでは、今年度より宇治キャンパス内で実習、研究を実施することとなった大学院生、学部4回生、および新規配属になった教職員等を対象に、平成21年度新入院生等のための安全衛生教育を実施した。

宇治地区部局長会議世話部局長である尾形幸生エネルギー理工学研究所長の挨拶の後、宇治事業場総括安全衛生管理者の宗林由樹化学研究所教授、宇治地区総合環境安全管理センター長の石川裕彦防災研究所教授ほか衛生委員会委員等により、化学物質管理や廃棄物・排水の取扱いなど、宇治事業場での研究、実験の実態に即した安全衛生の講習が行われた。

実験等で発生する事故の危険度と、人的被害、危険の防止と安全対策に関心が寄せられ、学生228名、

教職員67名、合わせて295名の参加者があり、熱心に耳を傾けた。



日々の行動の安全とリスクへの対応を説明する石川教授

(宇治地区事務部)

平成21年度日本学術振興会拠点大学交流事業「環境科学」および「都市環境」連絡協議会を開催

工学研究科で実施している日本学術振興会拠点大学交流事業「環境科学」(交流先：マレーシア)および「都市環境」(交流先：中国)に関連し、5月19日(火)に連絡協議会を開催した。

この連絡協議会は、「環境科学」と「都市環境」双方から研究グループのリーダーと国内協力大学の研究者が一堂に会し、昨年度の交流実績と今年度の交流計画について討議し、情報共有をする会議で、毎年5月に開催している。今年度は、本学から西村周三理事・副学長、森 純一国際交流機構長、大瀧幸一郎工学研究科長をはじめとする28名が、国内協力大学から11名が参加し、日本学術振興会からも吉澤菜穂美拠点交流係長が出席された。



大瀧研究科長の挨拶

事・副学長から本学の国際化についての話があり、続いて日本学術振興会吉澤係長から同会で実施している事業について説明いただいた。その後、「環境科学」のコーディネータの松岡 譲教授とプログラムリーダーの松下大輔講師、ならびに「都市環境」のコーディネータ



日本学術振興会吉澤係長による説明

の津野 洋教授とプログラムリーダーの薛 自求講師から、それぞれの事業における昨年度の交流実績と今年度の交流計画について説明が行われた。

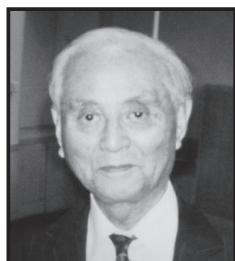
今後も工学研究科では、本事業で得られた知見を国際社会に発信していくとともに、これまでの交流によって培われた研究者のネットワークを効果的に活かしていくための資金の獲得にも力を入れていく予定である。

(大学院工学研究科)

訃報

このたび、^{ふるかわじゅんじ}古川 淳二 名誉教授が逝去されました。
ここに謹んで哀悼の意を表します。
以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介します。

古川 淳二 名誉教授



古川淳二先生は、3月18日逝去された。96歳。

先生は、昭和12年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業され、同23年京都大学化学研究所教授に就任された。同25年工学部(工業化学科)教授を経て、同35年に同合成化学科教授に就任され、重合化学講座を担当された。同51年に停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。本学退官後は、東京理科大学教授、愛知工業大学教授等を務められた。

先生は、新しい合成ゴムの開発、多くの新重合反

応と新重合触媒の発見と開発、立体規則性重合の原理の確立、ゴムの粘弾性理論の展開など先進的な業績をあげられ、日本化学会賞など数々の賞を受賞された。また、有機金属重合触媒、重合理論、ゴムの物理および化学などの分野で指導的な役割を果たすとともに、これらの分野で多くの人材を輩出された。

先生はまた、日本化学会会長、高分子学会会長、日本ゴム協会会長などの要職を歴任され、学協会の発展にも大きな貢献をされた。

これら一連の教育研究活動、学会活動により、昭和58年11月勲二等瑞宝章を受けられた。

(大学院工学研究科)

公開講座

平成21年度(第73回)食と農のマネジメント・セミナー (「農林経済・経営・簿記講習会」より名称変更)

1. 内 容：第1クラス 短期集中講義形式による複式簿記の原理と実践 (定員15名)
第2クラス 農業経営におけるビジネス・マインド養成のための基礎実習(定員15名)
第3クラス 食品トレーサビリティの原理と応用(ケースメソッド)(定員100名)
2. 日 時：第1クラス 平成22年2月3日～4日
第2クラス 平成22年1月12日～14日
第3クラス 平成21年7月23日～25日
3. 対 象：行政・団体職員・高等学校教諭・農業者・食品企業・食品関連企業等
4. 場 所：農学部講義室等
5. 講 師：農学研究科教授 新山陽子他7名
6. 講 習 料：第1クラス 7,200円
第2クラス 9,200円
第3クラス 15,000円 初日(講義)のみ参加の場合 5,000円
7. 申 込 方 法：開催要領および申込用紙を「9. 問合せ先」まで請求してください。
申込書に必要事項を記入し、返信用封筒(長3規格、切手80円貼付、返信先の住所・氏名記入)を同封のうえ申し込んでください。申込受理後、受講者決定通知および講習会案内を発送します。
8. 申 込 期 間：第1・第2クラス 12月1日～12月11日まで
第3クラス 6月1日～7月3日まで
(必着・定員になり次第締め切ります。)

9. 問合せ先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻「公開講座係」
TEL：075-753-6200 FAX：075-753-6191
E-mail：shigen@adm.kais.kyoto-u.ac.jp

(大学院農学研究科)

数理解析研究所 数学入門公開講座

1. 日 時：7月30日(木)～8月2日(日) 各日10:30～16:00
(8月3日(月)に、各講師に自由に質問・討論できるオフィスアワーを設けています。)
2. 場 所：理学部6号館202号室 (※ 例年と会場が違います。)
3. 演題および講師：ディンキン図式をめぐって－数学におけるプラトン哲学
『数学』を数学的に考える
多品種流の話
- 教 授 中島 啓
准教授 照井 一成
助 教 平井 広志
4. 受講料：7,200円
5. 受付期間：6月15日(月)～7月6日(月)17:00(必着)
6. 問合せ先：京都大学数理解析研究所総務掛「数学入門公開講座」係
TEL：075-753-7203 FAX：075-753-7272
E-mail：kouza@kurims.kyoto-u.ac.jp
詳細は数理解析研究所ホームページをご覧ください。
<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/kouza/>

(数理解析研究所)

理学研究科数学教室公開講座「現代数学展望」

1. 日 時：8月3日(月)～8月5日(水) 各日10:00～17:00(3日間)
2. 場 所：理学研究科3号館110講演室
3. 内 容：確率論と数理ファイナンス
図形とガロア理論
不動点定理をめぐって
- 教 授 重川 一郎
准教授 加藤 文元
助 教 原田 雅名
4. 受講料：一般 5,000円(受講決定通知後に、銀行振込にて受講料を納入願います。)
高校生 無料(後日返送する受講決定通知と学生証の提示が必要。)
5. 受付期間：6月1日(月)～6月30日(火)
6. 問合せ先：京都大学大学院理学研究科数学教室 TEL：075-753-3700
詳細は理学研究科数学教室ホームページをご覧ください。
<http://www.math.kyoto-u.ac.jp/koukai.html>

(大学院理学研究科)

お知らせ

無料法律相談のお知らせ

— 7月実施分について申し込みを受付中 —

法科大学院では、授業の一環として行う法律相談実務演習(リーガル・クリニック)において、無料法律相談を実施しております。

この無料法律相談は、日常生活の中で生じるさまざまな法律問題について、弁護士の立会いと指導のもと、既に法律知識を習得している法科大学院3年次の学生が市民の方々からのご相談に乗り、必要な助言を行うものです(秘密は厳守いたします)。

現在、7月実施分について申し込みを受付中です。

(実施日) 7月2日(木)、3日(金)、8日(水)

※ 8月・9月の相談予定はありません。

10月以降の実施等、詳細は法科大学院ホームページをご覧ください。

<http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/kusunoki.html>

[問合せ先]

京都大学法科大学院 リーガル・クリニック担当

TEL: 075-753-3262 FAX: 075-753-3129(午前10時～午後5時/土日祝休)

(法科大学院)

日誌 2009.4.1 ~ 4.30

- | | |
|--------------|---|
| 4月3日 学生部委員会 | 17日 財務委員会 |
| 6日 名誉教授称号授与式 | 21日 企画委員会 |
| 7日 入学式 | 24日 図書館協議会 |
| 〃 大学院入学式 | 〃 第5回記者クラブとの定例懇談会 |
| 13日 役員会 | 28日 教育研究評議会 |
| 14日 部局長会議 | 30日 フランス、中谷陽一・ストラスブル大学
日本委員会委員長、総長他と意見交換 |
| 〃 入学試験委員会 | |
| 15日 国際交流委員会 | |



第5回記者クラブとの定例懇談会の様子

隔地施設 紹介



観測所全景



ハルタ山観測坑道



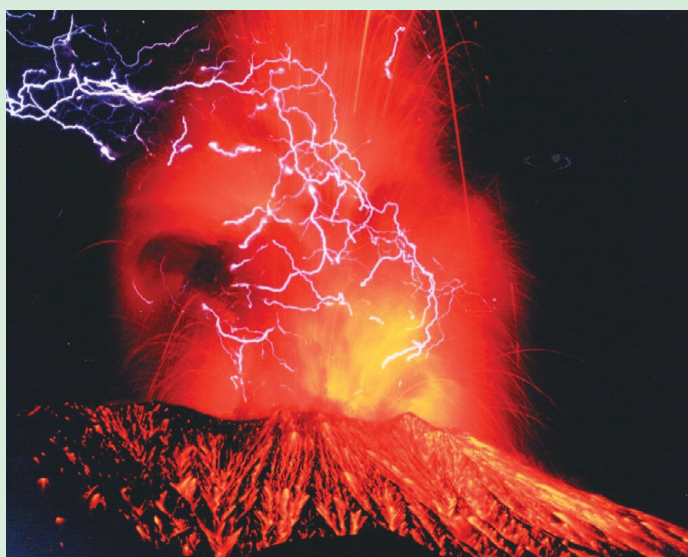
ハルタ山観測室(旧本館)

防災研究所附属火山活動研究センター桜島火山観測所

(<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~kazan/default.html>)

桜島火山観測所は、1914(大正3)年の大噴火によって流出した溶岩原の中にあります。人口60万人の鹿児島市から桜島フェリーで15分、比較的市街地に近い観測所といえます。観測所の東には北岳、南岳がそびえ、遠く高千穂や開聞岳を望むこともできます。

桜島火山観測所は、阿蘇山、浅間山に続くわが国の大学における3番目の観測所として、1960(昭和35)年に設立されました。1955(昭和30)年10月に南岳の山頂火口において始まった爆発的な噴火活動がその設立の契機となっています。当時、調査を行った佐々憲三教授は桜島の火山活動が長期化することを予測し、恒久的な火山観測施設の必要性を痛感されました。鹿児島県からはすでに阿蘇山に研究所をもっていた本学に対して観測所設置の強い要望が寄せられ、文部省の努力によって観測所が設置されました。大学においても社会貢献が叫ばれる今日ではありますが、桜島における火山観測所は、その設立の経緯からも社会的貢献の側面が非常に強いといえます。



1992(平成4)年5月19日に発生した桜島南岳の爆発的噴火(桜島火山観測所より撮影)

設立当初の観測所本館は南岳からわずか2.7kmの距離にあるハルタ山にあり、火口に近いため、降り続く降灰に悩まされることも多く、噴石が構内に落下したこともあることから、1979(昭和54)年に桜島港近くに移転しました。組織としての桜島火山観測所は1996(平成8)年に火山活動研究センターに改組されましたが、同センターの本館の名称としてその名をとどめています。

創設者は火山学の研究を推進するために、活火山のあるところの火山観測所では講座並みの研究者集団を形成することが基本的に必要と認識し、その努力を払ってきました。桜島火山観測所は、火山活動研究センターとなっても、火山研究の基盤的施設であることに変わりなく、現在でも6名の教員は桜島の現地に勤務し、3名の技術職員が観測・研究を支援する体制をとっています。センター長の石原和弘教授は、桜島だけでなく全国の火山の観測研究を統括しなければならないため、井口正人准教授が行う観測研究全体のコーディネートのもとに、4人の助教、為栗健が地震観測、山本圭吾が地盤変動観測、神田 径が電磁気学的観測、味喜大介が古地磁気学的調査に基づいた研究活動を進めています。現地観測に基づく実証的火山噴火予知の研究では、技術職員の支援が不可欠であります。新任、再雇用合わせて3名の技術職員が地震、地盤変動などの常時観測と調査を支援し、さらに2名の非常勤研究員と3名の非常勤職員が補佐しています。

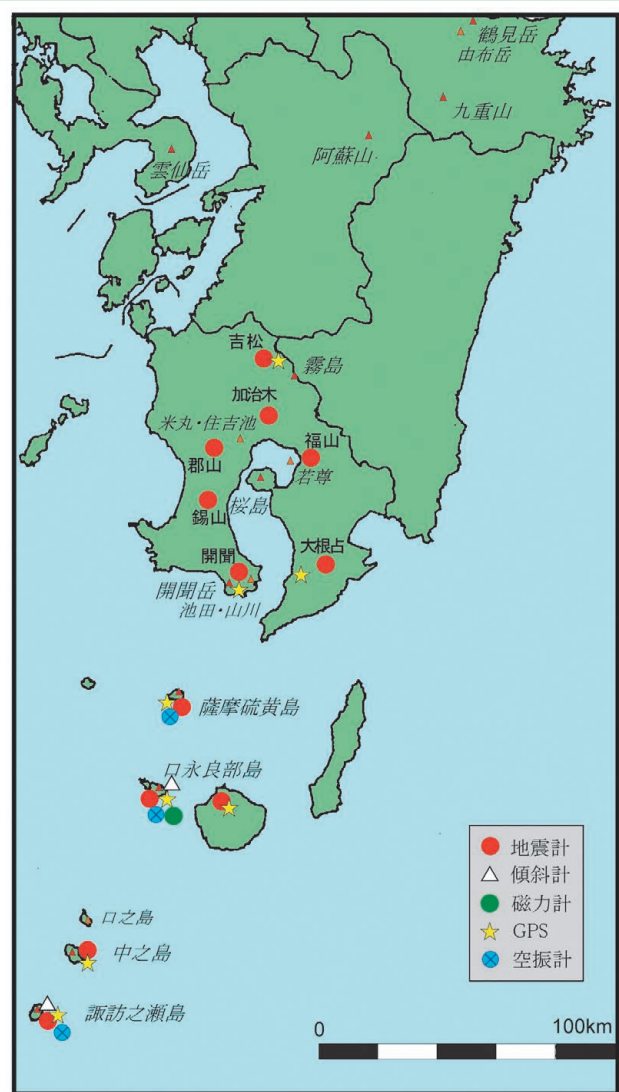
観測所設立当初の観測はすべて現地で記録され、記録の交換などに多くの時間が費やされました。その後、有線遠隔観測に移行したもののその有線路線の維持に多大な労力を要しました。火山噴火予知計画が始まった1974(昭和49)年以降、研究基盤となる観測網の整備が急速に進み、観測網の広域化や観測計器を観測坑道や観測井に設置することによる高精度化が図られました。現在では、IP化されたネットワーク網によりデジタルデータが常時伝送されるようになっています。また、観測網

は、桜島は元より霧島近くの加久藤カルデラから薩南諸島の薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島にも及んでおり、恒常的な観測点数は約40に達しています。これらの火山において火山性地震・微動の観測、傾斜計、伸縮計、GPSや水準の繰り返し観測に基づく地盤変動観測、火山体内部の状態を把握するための重力測定・地球電磁気学測定、低周波音や映像による噴火活動の観測、火山岩磁気測定などの多項目観測を実施しています。

これまでの観測研究の代表的なものとして、観測坑道・観測井に設置された計器により観測された高品位データを用いた火山噴火予知の実践的研究があげられます。旧本館があるハルタ山には長さ250mに及ぶ観測坑道が1985(昭和60)年に掘削されました。坑奥に設置された水管傾斜計・伸縮計により南岳山頂爆発直前の火口周辺の地盤の隆起・膨張を捉えることができ、約70%の爆発を事前に予測することに成功しました。これらのデータは鹿児島地方気象台、大隅河川国道事務所、鹿児島空港にも送られ、火山監視や砂防従事者・航空機の安全確保に利用されました。この噴火予測方式は最近国土交通省が南岳の南東麓に掘削した観測坑道にも用いられ、2006(平成18)年から始まった昭和火口における噴火予測にも役立てられています。また、これらの高品位の地震・地盤変動データを用いて爆発の詳細な過程が



桜島島内の観測網



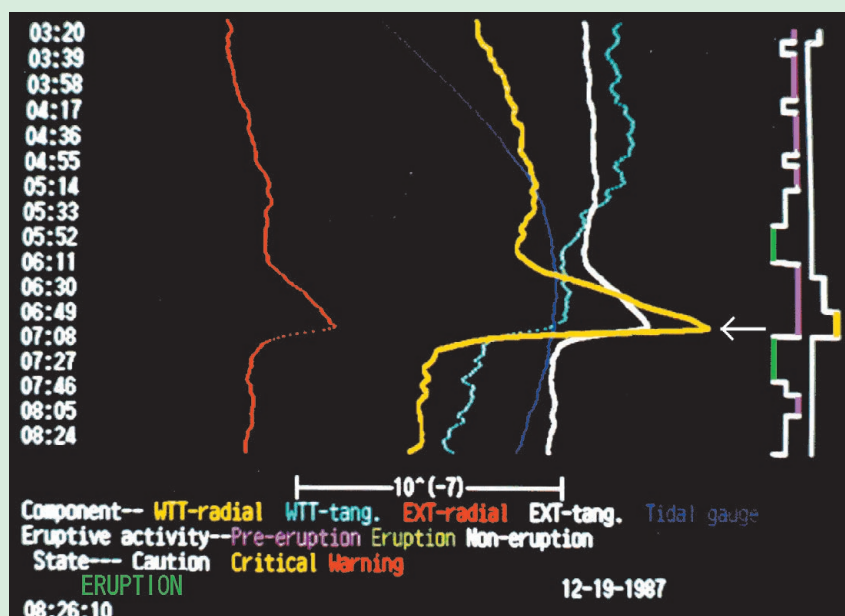
南九州に展開された観測網

明らかになりました。一方、桜島火山観測所設置から50年にわたる長期観測では桜島のマグマの蓄積状態が近年変化してきたことがわかってきました。桜島のマグマ溜りは桜島の北方、始良カルデラ下の深さ10kmにあると考えられています。1970年～80年代の爆発的噴火が年間400回にも達した活動期では、多量の火山灰・火山ガスが放出されるため、桜島周辺の地盤が沈降・収縮していましたが、1990年代の半ば以降、噴火活動が低調になると逆に隆起・膨張に転じたことが水準

測量、GPSなどの観測により明らかとなりました。このことはマグマが蓄積され始めたことを意味し、その蓄積量は約1億 m^3 に及びます。このマグマ溜りから桜島の南岳に至るマグマ供給路の全貌を明らかにすることを目的として昨年11月には15点の爆破点から放射された地震波を700台の地震計で観測する大規模な人工地震探査が行われました。

このような精度のよいデータは学生の教育にも使われています。桜島火山観測所の教員は理学研究科地球惑星科学専攻に属し、大学院学生の教育を行っています。質の良いデータは学生の研究を大いにすすめることになるとともに、桜島のような活動的火山は学生自身が自らの考え、自らの手法で観測データを手に入れられる最良の教育フィールドでもあります。何よりも噴火を繰り返す生きた火山を実感できることは、若い学生・研究者にとって何ものにも代えがたいものです。このようなことから、インドネシアなどからは多くの国費留学生・研修生が本観測所で学び、帰国後は自国で火山活動の評価やその予測などの任務についています。

桜島火山観測所の設立の経緯は社会貢献の側面が強く反映されているとおり、火山噴火時や噴火が切迫している状況では、大学は学識経験者としての見解や意見が強く求められます。観測によって得られたデータをもとに、国レベルでは、火山噴火予知連絡会において火山活動の評価を行います。地方レベルでは、鹿児島県などと連携して緊急調査を行うとともに、各種委員会において学識経験者として火山活動の見通しや立ち入り規制や安全対策



桜島の爆発直前の傾斜変動(黄色)。爆発(矢印で示す)の約1時間前から火口方向の地盤が隆起・膨張していることが検出された。



2009(平成21)年4月9日の昭和火口からの火砕流。南岳南東の有村展望台より撮影。

など防災上の助言をします。また、火山防災マップなどハザードマップの作成にも携わり、必要に応じて住民や地方自治体の防災担当者を対象としたセミナーや説明会において講演を行います。2007(平成19)年12月に防災対応とリンクする噴火警戒レベルが発表されるようになり、2008(平成20)年3月に噴火時等の避難に係る火山防災体制の指針が示された現在では、鹿児島県、鹿児島市などの地方自治体や鹿児島地



桜島火山観測所スタッフ

方気象台、国土交通省大隅河川国道事務所などの国の出先機関と定期的に情報交換を行い、緊密な連携をとっています。

桜島火山観測所は他の隔地施設に比べれば多くのスタッフが常駐しているとは言え、京都大学のメインキャンパスからはるか600km 西方に離れた隔地施設の維持管理はもとより、火山研究に不可欠な観測の多項目化と南北300km に及ぶ観測網、全国レベルでの火山観測研究連携拠点・フィールドラボラトリーとしての役割、さらに活火山桜島をかかえる地域への学識経験者としての社会貢献など、なすべきことは多岐にわたっています。桜島は1970～80年代に比べれば、その噴火回数は少なくはなっていますが、昨年も南岳では4回の爆発が発生し、南岳東山腹の昭和火口では今年の2月、3月、4月と噴火が断続的に繰り返され、静穏化に至っているわけではありません。桜島北方の始良カルデラにはマグマが着々と蓄積されていることが明らかになってきており、むしろ将来の大規模噴火に向かってエネルギーを蓄積している状態にあります。観測所設立当時の要覧には「大学、文部省当局の厚意、配慮と、地元の方々の力強い援助が、本所設立に対して大きな意義をもっている。火山研究のように直接自然と相対する学問にとつては、その土地の方々の理解と協力が欠かせないことを考えると(中略)その基礎はしつかりしたものに支えられているといつてよいであらう。」と記されており、火山に限らず防災に関する学問分野では、社会的側面が如何に重要であるかを窺い知ることができます。桜島が次の噴火に向かっている今こそ、様々な側面から大学の力が試されている時であります。1914(大正3)年の大噴火から100年目にあたる2013(平成25)年には鹿児島市で火山学の国際会議が開催されます。観測所設立の原点にしっかりと立脚したうえで、国際的視野も含めた幅広い研究活動、教育活動を進めていくべきであると思います。

連絡先

〒891-1419 鹿児島県鹿児島市桜島横山町1722-19
TEL: 099-293-2058
FAX: 099-293-4024

職員構成

教授1名、准教授1名、助教4名(現地勤務)
技術職員 3名(現地勤務)
非常勤研究員 2名(現地勤務)
非常勤職員 3名(現地勤務)

アクセス

鹿児島空港から空港リムジンバスで鹿児島市役所前下車、徒歩10分で鹿児島港桜島栈橋に到着、または、JR九州新幹線鹿児島中央駅から、鹿児島駅行き市電で水族館前下車、徒歩5分で鹿児島港桜島栈橋に到着。桜島栈橋からは桜島フェリー乗船、桜島港到着後、徒歩10分。